

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年一月度 入選句（投稿総数千八百四十六句・小中学投句数千四百十四句）

特選

選者 説田 祐子

僕たちにみかんをくれる祖母の素手 加茂郡川辺町佐合 凌綺(中三)

みかんは、秋から冬にかけて誰がよく口にする食べ物です。作者は、おばあさんが「みかん、どう」などと言ってわたしてくださったのでしょうか。「素手で」という一言が効いています。みかんを丁寧に扱い、しっかり作者の手に渡されたおばあさんの心の温かさ、そして、その「素手」に目をとめた作者の気付き、いつもよりきつと、美味しいみかんだったことでしょう。二人の心の温かさが伝わる俳句です。

書き初め会筆先こだわる十五秒 大垣市 辻井 美葵(小五)

「書初め」は「新年になって初めて文字を書くこと」をいいますね。学校、三学期が始まるとよく「書初め会」が一齐に開かれることが多いですね。作者はその「書初め会」が始まり、いよいよ筆先に墨をつけ、用紙に置く「こうとした瞬間の気持ち、それを「筆先こだわる十五秒」とすかっと書き表わしています。読んだ方も思わず息を呑み込むような思いになります。書初めに対する集中心が伝わってきます。きつと、良い字が書けたことでしょう。

友達の笑顔も届く年賀状 大垣市 坪内 伯美(小六)

お正月に届く年賀状。誰から来るのかな。何枚来るかな。誰もが気になることですね。そして、届いた友達からの年賀状。笑顔の絵が描いてあったのでしょうか。又は、絵はなかったけれど年賀状の中に相手の友の笑顔浮かんできたのでしょうか。一枚の年賀状から、二人の心の通い合いが伝わります。

秀逸

クリスマス輝く街に一人の私 加茂郡川辺町 石田 陽菜(中三)

色なくし山は静かに眠りにつく 加茂郡川辺町 木下 愛理(中三)

だいこんがおでんの中でおどってる 愛知県碧南市 鈴木 結菜(小二)

おにごっこもみじの中をかけまわる 大垣市 赤堀 詩愛梨(小二)

初風とともにすずめがおにごっこ 大垣市 米山 真央(小五)

初写真ちよっぴり母に近づいた 大垣市 岡本 大岳(小五)

採寸に母と出向いて中学へ 大垣市 仁規 綾女(小六)

七草のうたを唱えてかゆづくり 大垣市 長坂 うらら(小六)

書初だピンと張りつめ一画面 大垣市 樋口 弓華(小六)

手ぶくろをはずしいとことさようなら 大垣市 平子 倅夢(小六)

入選

| | | | |
|--------------------|--------|----|--------|
| かぜひくよ祖母の言葉で温まる | 加茂郡川辺町 | 後藤 | 楓果(中二) |
| 寂しげに日に日に溶ける雪だるま | 加茂郡川辺町 | 山崎 | 美琥(中二) |
| 町中の子どもが笑顔クリスマス | 加茂郡川辺町 | 安江 | 桃(中三) |
| 点々と明かりが起き出す冬の朝 | 加茂郡川辺町 | 遠藤 | 華(中三) |
| 冬の朝ふとんが僕をはなさない | 加茂郡川辺町 | 小菅 | 佑弥(中三) |
| 冬の日や半分こげたパンケーキ | 愛知県碧南市 | 横井 | 友春(小五) |
| もみじまう風にのって旅に出る | 大垣市 | 平野 | 和真(小五) |
| 雪だるまみんなでつくった宝物 | 大垣市 | 加藤 | 遥香(小五) |
| しんこきゆう書き初めする手ふるえてる | 大垣市 | 佐藤 | 駿(小四) |
| 家族との仲が深まるこたつの中 | 大垣市 | 今井 | 日暖(小六) |

入選

| | | | |
|-------------------|-----|-----|---------|
| 雪うさぎたくさんならべてかぞくです | 大垣市 | 伊藤 | 衣知香(小三) |
| 年がじょうまだかまだかとポスト見る | 大垣市 | 市川 | 莉緒(小五) |
| 五線譜のような雲間に初日射す | 大垣市 | 長坂 | うらら(小六) |
| はつすずめみんなでそろいとんでるよ | 大垣市 | 傍島 | 結(小三) |
| はつゆきでいもうとわらうきらきらと | 大垣市 | 篠田 | 明璃(小三) |
| ひこうきはつひに向かってとんでゆく | 大垣市 | 平野 | 康介(小三) |
| 大晦日リモコン取り合い大戦争 | 大垣市 | 安本 | 心(小六) |
| 大空にカイトが上がる久瀬川 | 大垣市 | 外花 | 颯汰(小六) |
| 制服の採寸をする冬休み | 大垣市 | 生駒 | 七夢(小六) |
| 天高く一つ小さなたこが舞う | 大垣市 | 日比野 | 愛(小六) |

選者吟

どんど焼き火柱爆ぜて兎も爆ぜる

祐

子